

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/8/17 ～2017/8/31)

1. 勉学の状況

今月はまだ授業は始まっていませんが、オリエンテーションへの参加と履修登録をしました。オリエンテーションでは学生登録の方法や授業についての説明など大学生活に関することをはじめ、住民登録の方法などフィンランドに滞在するうえで必要な手続きについても説明があり、何をしなければならないかをひと通り確認することができました。

ひと通り確認できたと言っても、手続きを進めるうえで分からないことが多く出てきます。そのような時は、チューターやインターナショナルデスクという留学生の窓口にご相談しています。チューターもデスクの職員さんもとても親切で親身になって話を聴いてくれるので相談しやすく、いつも助けられています。

履修登録をしたと記しましたが、実際にはまだどのコースを受講するか決めかねています。興味深い授業が多くあり、なかなか選ぶことができません。もともと日本にいるときから絶対に履修しようと考えていた Identity and Lifecourse という教育学の授業と、Practical Observation of Finnish School System という現地の学校を見学できる授業はすぐに登録しましたが、フィンランドの教育の基本概念に関する授業や多文化教育についての授業、現在の教育の問題を様々な角度から考える授業などのうちどれをとるかで悩んでいます。また、フィンランド語や英語のコースも受講したいと考えているので、秋期セメスターは忙しくなりそうです(笑)。これらの授業は文献調査やディスカッションがメインで、エッセイも多く課されることが予測されるので、あまりに多くの授業をとると全てが中途半端になってしまうと思います。そのため、自分が全てのコースに全力を注げる限界の授業量を考えて、どれだけの授業を受けるか考えていこうと思います。



(タンペレ大学の写真)

2. 生活の状況

フィンランドに来てから 2 週間が経過し、ようやく生活が落ち着いてきました。最初の 1 週間は、学生登録やインターネットの接続手続き、銀行口座の開設など様々な手続きに追われてあたたふたしていましたが、それらが一通り終わって授業もない今は、友達と出かけたイベントに参加したりして過ごしています。この 2 週間だけでも様々なことがありましたが、身の回りの

こと、参加したイベントについて、友達との交流についての3つに絞って書こうと思います。

まず、私はドイツ人の女の子と2人でルームシェアをしています。こちらに来るまでは、価値観の違いによる問題や仲良くなれるかを心配していましたが、そのような心配は一瞬にして消え去りました。一緒に住んでいる子はいつも明るくて、行動力があり、ただただ尊敬するばかりです。生活習慣にそれほど違いがないことも大きく関わっているかもしれません。一緒に住むうえでのルールは特になく、掃除はお互い気付いた時にするといった感じですが、何も問題なく楽しく暮らせています。

身の回りのことについて苦労しているのは、買い物で自分が何を買っているのかわからないことがあることです(笑)。近所のスーパーはかなり大きく、野菜もお肉もチーズも、何にしても何十種類もあります。野菜は見ればだいたいわかりますが、ハムやソーセージは何の動物の肉なのか分からないし、チーズはどんな種類なのかが全く分かりません。困ったら店員さんに聞くのですが、全てを聞くわけにはいかないの、だいたいのは「きっと○○(ほしいもの)のはず…!」と思って適当に買っています。ここまで分からないとなんだかおもしろいです(笑)。これから日常生活を送るうえで必要なフィンランド語を覚えていこうと思います。

今は年度初めであるため、様々なイベントが催されています。私はその中で、大学主催のちょっとしたパーティーと、Pub Crawl というパブをまわるイベント、サウナパーティーに参加しました。ここではサウナパーティーについて少し詳しく書いておきます。このパーティーは名前の通り、みんなでサウナに入ろう!というパーティーです。室温 90°C近いサウナに入り、暑くなったら水温 15 度ほどの湖に入るというのを 2.3 回繰り返しました。フィンランドの文化のひとつであるサウナを体験できたという点と、他の国から来た留学生と仲良くなれたという点で、参加して良かったと思いました。様々なイベントを通して多くの人と知り合いになり、友達をつくることのできる、あまり大人数が集まるイベントが得意でなくても少し頑張ってみることが大事なのではないかと思いました。

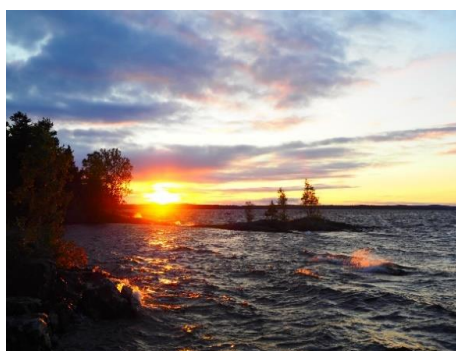
最後に、友達との交流について書こうと思います。最近は少し時間に余裕があるので、ルームメイトを含む何人かの友達と街や湖に行くことがあります。(タンペレは自然が豊かなだけでなく街が栄えているので過ごしやすいです。) また、自分の国の料理を作り合うこともよくしています。これまでに、ドイツ料理、日本料理、中国料理のパーティーをしました。私はもう一人の千葉大から来ている友達と日本の料理として手巻き寿司をふるまったのですが、想像をはるかに超えてみんな喜んでくれました。みんな楽しそうに巻いていて、おいしいと言って食べてくれました。イタリアから来ている子が、「イタリアでお寿司を食べた時はおいしくなかったけど、これはおいしい!これが本当のお寿司なんだね!」と言ってくれたのが嬉しかったです。(イタリアで食べたお寿司がどのようなものだったのか気になります)手巻き寿司はご飯を炊く以外はあまり手間がかからず、自分で好きなものを選べるので食べられない人がでることは無いため、外国人の友達とご飯を食べるときにはおすすめです。食事は良い交流の場となるので、これからもこのようなことは続けていきたいと思います。

この2週間だけでいろいろなことがありましたが、正直なところ、最も多く抱いた感情は「し

んどい」でした。(もちろん楽しかったことや嬉しかったこともたくさんあります!!) 大変ではありますが、しんどいと感じることが多いことに対して嫌だとは思っていないし、むしろ課題が見えてくるので良いのではないかとさえ思います。心を許せる友達がほとんどいない状態で言語の壁があって、やり方が全然分からないのに多くの手続きをしなければならない状態でストレスが溜まらないわけがありませんし(笑)。問題が生じた時に自力で調べたり人に頼ったりしながら解決していくことで、少しは成長できるのではないかと思います。そのため、何か困難な状況に陥ったとしても悲観的になるのではなく、「成長のチャンスだ! やった!」と思えるぐらいのスタンスで、様々なことに積極的に取り組めたらいいなと思います。



中心街



近くの湖で見た夕日(午後9時頃!)



友達が作った手巻き寿司



フリーマーケットが行われていました

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/9/1 ～2017/9/30)

1. 勉学の状況

今月は合計7つのコースを履修することにしました。今月は、それらの中からすでに始まっている5つのコースについて紹介したいと思います。

◎ Finnish Survival Course

フィンランド語の基礎の基礎を学ぶコースです。まだ簡単な自己紹介や数の数え方しか学んでいませんが、これから文法についても少しずつ学んでいくと思います。一単語が比較的に長く、文法構造が英語とも日本語とも違って複雑であるため難しいですが、フィンランド語が必要な場面は山ほどあるので、頑張っ勉強していきたいと思います。

◎ Language, Communication and Culture

異文化間コミュニケーションについて体験を通して学ぶ授業です。授業の中で印象に残ったのは、「文化によって様々な場面で違いが生じるが、違いがあることは悪いことではない。相手の考えと違うからといって自分の考えを抑える必要はない。バランスが大事である。」「初対面の人に会う時、相手は“人”であって、“文化”と出会っているわけではない。だから、人を表面上だけ見て思い込みで判断せず、中身を見ることが大切である」ということです。当たり前のように思えますが、様々な国の人と話しながらこの内容について考えると、これらの難しさを実感します。文化についての問いは答えがなく人それぞれ異なる考えを持っているため難しいですが、新しい視点をえられて面白いです。

◎ Cultural Conversation

このコースはグループの活動のみで、講義はありません。グループごとに何を目的として何について話し合うのかをすべて自由に決めることができます。私の所属するグループでは、互いの文化の共通点や違いを認識することを目的として、教育、食文化、スポーツ、趣味、学校生活の5つをトピックとして選びました。これから週1回程度集まって進めていく予定です。

◎ Practical Observation of Finnish School System

小中学校の授業観察を行い、自国の教育とフィンランドの教育を比較しながら特徴をつかむことがゴールです。これまでに小学校の授業8時間分観察しました。学校生活の様子全体から考えると、それほど日本の学校と違いはないという印象を受けました。ですが、扱われる課題のレベルや児童に与えられている自由、児童が前に出て自分の意見を述べる機会の多さなど細かい部分を見ると違いが見られて、様々な教授法について考えることができました。また、特に音楽の授業で感じたのですが、授業観察からフィンランド人の国民性がどのようにしてつくられるのかも少し感じられて面白いです。

◎ Struggles on Education

教育は誰が受けるべきか、教育するうえで何が重視されるべきかなど、教育の根本について考えるコースです。グループでのディスカッションがメインで、具体的なテーマはグループで決めます。自分の受けた教育について話しあう時間が設けられ、周りの人たちは生き立ちとともに問題だと考えることも話していたのですが、私はまごつきながら日本の教育システムを本当に簡単に説明することしかできず、苦しかったです。院生用の授業であり高度な内容だからというのものもあるけれど、それにしてもついていけなさすぎる...というのが感想です。どれだけやれるか分かりませんが、自分にできることを頑張ってみようと思います。もしかしたら受講をやめるかもしれませんが…。

2. 生活の状況

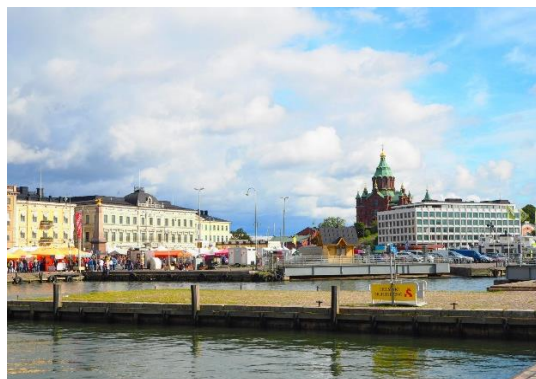
留学生の友達、フィンランド人の友達がたくさんでき、話をすることや一緒に出かける機会が増え、毎日が楽しいです。紅葉がきれいなのでハイキングに出かけたり、タンペレにあるミュージアムに行ってみたりと、今月も様々な場所へ行きました。その中で、ヘルシンキへの旅行と小学校への訪問について詳しく書いていきます。

◎ヘルシンキ旅行

ヘルシンキに住むフィンランド人の友達に会いに行きました。滞在時間は1日半もなく短かったのですが、多くの名所に行くことができて大満足でした。その友達と、英語、日本語、たまにフィンランド語をまじえながら話をしたことも楽しかったです。また、フィンランドで人気だというテレビ番組を見せてもらったことは良い経験になりました。日本の番組とは趣向が違い、感性を大切にしている番組が多いと感じました。そのような違いがあることが不思議で面白かったです。観光だけでなくフィンランドに住む人の日常生活も体験でき、とても充実した旅行となりました。



ヘルシンキ大聖堂



奥の方にウスペンスキー寺院が見えます

◎小学校訪問

ある小学校の先生が、自国の文化を紹介する留学生を募集していたのを見つけました。もともと小学校に行って子どもたちと関わってみたいと思っていたので、その先生に連絡を取ったところ、小学

校に訪問して日本の文化を紹介する機会を頂くことができました。鶴や手裏剣などの折り紙なら楽しみながら文化も感じてもらえるかな、それにカタカナで名前を書いたら喜んでもらえるかな、と思い、それらをやってみました。日本に興味のある子がちらほらいて、その子たちはとっても喜んでくれたのですが、そこまで日本に興味のない子の中にはつまらなく感じてしまっている子もいたように感じました。誰にとっても面白いと感じるような活動をつくることの難しさを実感しました。今後また学校を訪ねる機会があれば、フィンランドでも人気のあるポケモンを導入で使うなど、もっと策を練ろうと思います。

生活に慣れてきたこともあり、やりたいことがたくさん浮かぶようになりました。受けてみたい講義は山ほどあるし、やってみたい調査もある...もっと小中学校に出向いて子どもたちと関わりたいし、大学の友達とお出かけしたい..フィンランド語や英語をもっと勉強していろいろな人とより楽しく話せるようになりたい...。最近いろいろ手を出しすぎてどうしたらいいか分からなくなっています(笑)。どれだけできるか分かりませんが、どれも頑張りたいと思います。

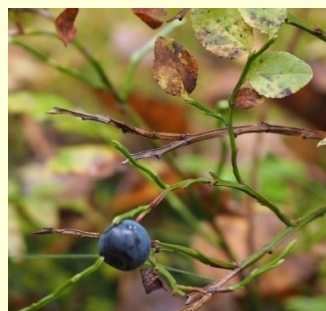
〈ハイキングで見つけたものたち〉



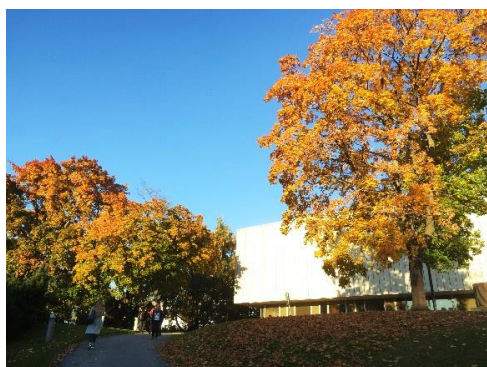
リンゴンベリー（花がかわいい）



きのこ



ブルーベリー



紅葉



朝6時半に撮った写真です。暗い！

〈 おまけ：今月のびっくりニュース 〉

- ・寒い（気温が5~6°Cでも、もう驚きません）
- ・まだ9月なのにフィンランド人でもしっかり防寒している。マフラーや手袋までしている人もいる。
- ・服のサイズがSでも大きいと感じた（私の身長は160 cmです）。
- ・ある授業のグループで一緒になったメンバーの中の1人が、以前タンペレ大学に留学していた先輩方と友達だった！！本当に偶然だから余計に驚き。



海外派遣留学プログラム月間報告書



(報告期間：2017/10/1 ~2017/10/31)

1. 勉学の状況

それぞれの授業の内容が深まり難しくなったことで、授業についていくことや課題をこなすことが大変になってきました。ですが、どれも興味深く面白いものなので、課題に追われてもそれほど辛くはありません。今月は、新しく始まったコースと新たな活動のあったコースについての簡単な説明と、その他のコースの全般的な感想を書いていきます。

◎Finnish Education System

10月の最終週から始まった授業です。フィンランドの教育システムについて学んでいきます。毎週あるテーマについての論文を読み、話し合いたいテーマを考えることが宿題として課され、授業ではその論文について考えたことを話しあいます。この前の授業ではフィンランドのインクルーシブ教育や生涯教育について話し合いました。

◎Practical Observation of Finnish School System

今月は中学校と高校の授業見学が主な活動でした。大学の講義がない時間に個人で学校に出向き、授業を見学させていただいています。小学校での見学と同様、授業ごとに、気づいたことや自分の国の学校との違いなどをまとめていきます。

授業の準備や宿題を入念にすることの重要性を最近強く感じます。ディスカッションが主となる授業が多いため、与えられた課題をしっかりとっておかないと授業に参加できなくなってしまいます。時間はそれなりにかかってしましますが、準備を十分にしたうえで授業に臨んでいこうと思います。

異文化間コミュニケーションの授業でも教育制度の授業でもそうですが、考えれば考えるほど自分が何を考えているのか、何が良いのかがわからなくなってきました。多くの情報が短期間に入ってきたので、混乱している気がします。(そのため毎授業後に提出のレポートで苦労しています…)私の受講しているコースの大部分は答えが明確にはない問題について扱っているので、それも混乱する要因のひとつだと思います。少しずつ得たものを消化して、自分なりに考えをまとめられるようにしていきたいです。

2. 生活の状況

◎気候

気温が氷点下になることがかなり多くなりました。今では 5°C以上あればあたたかい方です。気温が 7-8°Cあった時とそれほど服装を変えなくても平気なので、自然とフィンランドの寒い気候に体が慣らされている気がする…と思っていた矢先、風邪をひきました。気持ちでは大丈夫だと思っても、実際は体に負担がかかっていたのかもしれません。防寒をしっかりするべきだと学びました。

気温よりも心配なのは、日光があまり浴びられないことです。日の出の時刻が遅くなり、日の入りが早くなることに加え、曇りの日が多い!! 日光が出ていたら外に出るようにし、これからはビタミン D を摂取するなどして冬を乗り越えたいと思います。

◎今月 1 番行った場所

今月撮った写真を見返したところ、大部分が森の写真でした(笑)。よく考えてみたら、毎週末、森でハイキングしていたことが発覚しました。もともとフィンランドは自然であふれている場所だという話は聞いていたのですが、まさかここまで森に行くことになるとは想像もしていませんでした。たくさん自然の中に入ったことで、何種類かのベリーの木や毒キノコを見つけるという技を身に付けることができました。

◎映画を見ました

友達に誘われて、映画を見に行きました。日本語はもちろんあるはずもなく、音声は英語で字幕はフィンランド語でした。おかげで内容はあまり理解できませんでした! 画家のゴッホの本当の死の原因を探ることが主題だったのですが、その原因を理解できなかったのが気になります(笑)。自分でも驚いたのですが、映画を見ていて英語で何を言っているのか理解できなかった時に、無意識のうちにフィンランド語の字幕を見て理解しようとしていました。英語の方がフィンランド語よりもよほどわかるのに…。本当に不思議です。

◎フィンランド語に奮闘中!

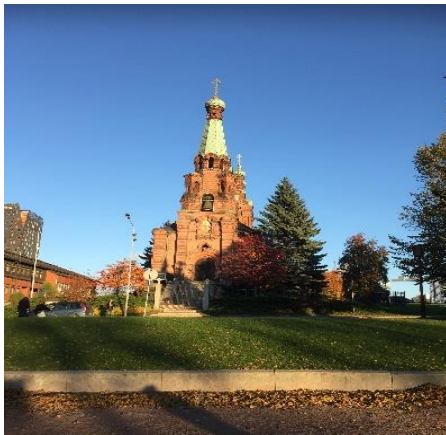
フィンランドで生活していたら、少しはフィンランド語が自然と分かるようになってくるかな…? と思っていましたが、それは大きな間違いでした。2 か月以上経過した今でも、全くと言っていいほどわかりません! 授業だけでは足りないと感じたので、フィンランド人の友達に聞いたリフィンランド語学習者用の本を読んだりして勉強し始めました。文法も単語も、英語・日本語どちらにも似ていないため大変です。言語をゼロから勉強することがこんなにも大変だということをおぼえていました。11 月は語彙力を増やすことを目標に頑張ります。



森



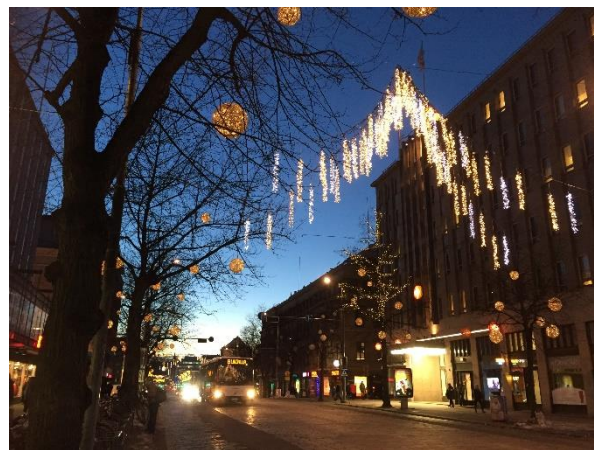
トゥルクに出かけた時の写真（トゥルク城）



大学の近くにある教会



雪が降った日の大学の様子



“日が短くても憂鬱にならないように”ということで
イルミネーションが施されているようです

〈今月のおまけ：意味は違ってても日本語と同じ発音のフィンランド語〉

単語	意味（日本語）	意味（フィンランド語）
tori	鳥	市場、広場
ilo	色	喜び
kani	かに	うさぎ

※日本語とフィンランド語の音は似ているようです！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/1 ～2017/11/30)

1. 勉学の状況

様々なコースの最終課題の締め切りが迫っており、文献をひたすら読みエッセイを作成するというが続いています。専門用語や基礎的な知識を理解し始めたからか、以前に比べて論文を読むのが楽になりました。エッセイの内容や構成を考えることに多くの時間をかけていきたいため、この変化は自分の中ではかなり大きいです。12月初旬に締め切りのものが多いので、あと1週間で乗り切ろうと思います！！

講義の様子は先月までとあまり変わりはないので、今月はこれまでの授業を通してフィンランドの教育について感じたことを書いていこうと思います。

日本にいるときは、フィンランドの教育は日本のそれとはかなり違うと思っていました。学校で生徒が与えられている自由の度合いが全然違うのではないかと、学校で生徒に教える内容がかなり少なめなのではないか…などと考えていました。確かに違いはありますが、全体的に考えると、そこまで違いは無いように感じました。フィンランドの小中高等学校を何十時間と見学させていただきましたが、学習内容はほぼ同じで、生徒の様子も日本と似ているように思えました。法律レベルでの教育システムの違い(1クラス当たりの人数など)や教育に使われる予算の多さは時々羨ましくなりますが、学校での活動自体に大きな違いはなさそうです。

少し意外だったのが、多くの国で同じような問題を抱えているということです。勉強することの面白さをどのように感じさせられるようにするかや、勉強が苦手な子への対応や、逆に秀でている子への対応、大学で勉強する機会の平等性などは、フィンランドを含む様々な国で課題となっているようです。

いろいろと学校での活動の内容の違いを考えてみたのですが、日本でもフィンランドでも先生によってかなり異なるので、はっきりといえる違いは見つけられません。授業内でのグループ活動の長さや、生徒の創造性を働かせる活動に充てられる時間の違いなど思い浮かびましたが、日本の学校でも同じように行っている、それを目指している教員数は少なくないと思うので、何とも言えない…という結論に至りました。

最後に、これまでに話を伺った先生方のことばで印象に残っているものを最後に挙げておきます。

- ・「生徒の創造性を育てることが大事」(小学校の先生)
- ・「授業の活動の責任は先生ではなく生徒にある。だから質問をできる状況は十分に用意するが、自ら(教員が)声をかけることはない」(高校の先生)

教育についての考えは人それぞれで、文化背景や社会のシステムの影響も受けると思うので、

PISA の結果などを見ただけでその教育システムが良いと言うことは出来ないし、その教育システムを取り入れれば成功するというわけでもないと思います。(そもそも教育システムにあまり大きな違いは無いのかもしれませんが…)ただ、他の国の制度や活動を知ることで見えてくる自国のシステムの特徴はあると思うし、改善点を考えるうえで、多角的に考えられるという意味で、様々な方法、システムを知ることが重要だと思います。まだまだ考えがうまくまとめられませんが、今はとにかく多くのことを学んでいきたいです。

2. 生活の状況

今月は趣向を変えて、3か月以上タンペレで過ごして、来る前のイメージと違ったこと、いまだに慣れないこと、面白いと思ったことなどを書いていこうと思います。

◎イメージと違ったこと

フィンランド人は無口で内向的だとよく聞いていましたが、そんなことはありませんでした。留学生の私が話しかけてもすぐに輪に入れてくれるし、話もたくさんします。「無口だ」というのは、フィンランド人が静寂を悪いと感じないと思うことからきているのかもしれませんが。日本人よりもむしろおしゃべりな人が多いように思えます。

◎慣れないこと

車が右側通行なことに慣れません。道を渡る時に、日本では小さい頃から「右・左・右」の順で車が来ないことを確認するように言われますが、もし日本と同じように確認したら車に轢かれてしまうかもしれません！フィンランドでは車が左から走ってきます！3か月以上経った今でも、よくわからなくなってきょろきょろしてしまう時があります。挙動不審な人になっていそうです…。

◎面白いと思ったこと

ベジタリアンがびっくりするほど多いです。フィンランド人の場合は宗教ではなく、環境にやさしいからという理由でベジタリアンになる人が多いみたいです。大学のレストランでもカフェでもベジタリアン用の料理が豊富です。

◎考えたこと

日常生活でフィンランド人と会話をする機会はよくあるのですが、ほとんどのフィンランドの人たちが英語を話せるのにもかかわらず、たいていフィンランド語で話しかけられます。なぜ英語で話しかけられないのか不思議に思っていたのですが、最近謎が解けました。ただ単に、私が外国人として見られていなかっただけのようです。

普段は買い物のレジでのあいさつはフィンランド語ですが、先日、分からない事があっ

たため英語で質問した時がありました。その時の店員さんの反応が「英語を話すんだね！」だったのです。フィンランドにも移民はいるものの、アジアからの移民はかなり少ないため、外国人として見られていなかったことは予想外でした。

日本にも、海外から来ている人で日本語を話せる人や、生まれは海外だけど育ちは日本だという人の数は少なくないと思います。ですが、多くの人が見た目で外国人だと判断していると感じます。フィンランドで生活してみて、このような判断の方法はあまりよくないかなと思うようになりました。私は、始めは英語で話しかけられる方が楽だったのですが、最近はフィンランド語で話してもらえる方が、外国人として特別扱いされない方が嬉しいです。フィンランド語が話せない外国人の私でもこのように感じるので、その土地の言葉を話せてその場所に長く住んでいる人ならば、なおさら英語で話しかけられるのは悲しいことだと思います。

これは他のあらゆることにもいえますが、一部だけを見て判断するのではなく、様々な角度から物事をとらえようとするのが大切なのではないかを感じるようになりました。また、自分と違うからといって特別扱いするのではなく、誰に対しても平等に接する方が良いのではないかと思います。

<今月のおまけ：ムーミンのキャラクターの名前クイズ！>

ムーミンのキャラクターの名前は、日本語とフィンランド語で（英語でも！）異なります。フィンランド語で、これらのキャラクターは何と呼ばれているでしょうか？



①ムーミントロール



②リトル・ミー



③によろよろ

*答えは下の方に書いておきます！



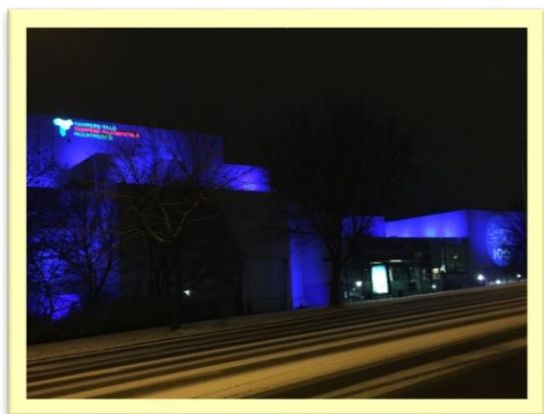
ブルーベリートルト



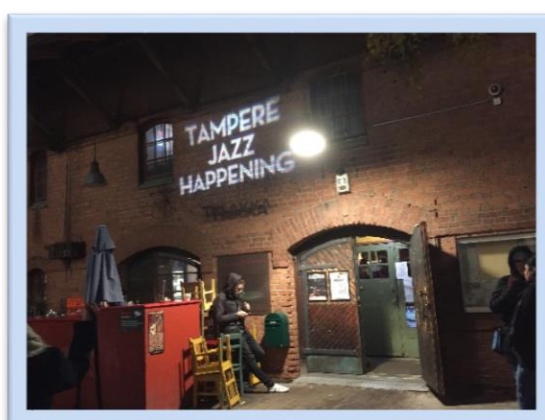
シナモンロール (友達作)



アパートからの景色



朝 8 時でこの暗さです



ジャズのイベントがありました

—おまけのクイズの答え—

① Muumipeikko (ムーミペッコ)

② Pikku Myy (ピク・ムー)

* フィンランド語で y は日本語の u に近い音になるのでムーになります。

③ 単数形だと Hattivatti (ハッティヴァッティ)

複数形だと Hattivatit



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/1 ～2017/12/31)



1. 勉学の状況

今月は課題の山に圧倒された月でした。どのコースの最終課題も締め切りの時期がほぼ同じで、12月半ばは本当に倒れそうでした(笑)。出来は満足のいかないものもありますが(後でこうなってしまった理由を書きます)、とりあえず終わらせることができほっとしています。

以下にそれぞれのコースの具体的な最終課題を記そうと思います。

◎ Practical Observation of Finnish School System

これまでの授業観察のダイアリーに加え、フィンランドの教育についてのエッセイを課されました。5つの文献が提示され、そこから最低でも4つは引用するように指示されました。また、自分の国の教育と比較するために、自分の国の教育についての文献も用いるように言われました。テーマは自由で、枚数は10ページ以上でした。私は、学校での児童・生徒の活動や教員養成、平等性などに触れながら、創造性の育成をテーマにエッセイを書きました。

◎ Finnish Education System

このコースの最終課題もフィンランド教育についてのエッセイでした。テーマは自由で、枚数は5-7ページと規定されていました。文献の指定はありませんでしたが、何からの文献を用いるように指示されました。このエッセイでは、インクルーシブ教育やジェンダーの影響、移民教育などに焦点を当てて平等性をテーマにまとめました。

◎ Identity and Lifecourse

アイデンティティについてのエッセイが最終課題として課されました。枚数は5ページ以上でした。これも指定された文献はありませんでしたが、何かしらの文献から引用することは必須条件でした。私は、学校場で教員が子どものアイデンティティの成長をどのように手助け出来るのかについてまとめました。

◎ Finnish Survival Course

このコースの最終課題はリスニング、リーディング、ライティングのテストでした。私はいくつかあるフィンランドのコースの中から、最も易しいものを選択したため、テストはそれほど難しくはありませんでした。日常生活でよく使う内容(自己紹介で使うフレーズ、食べ物、数字など)に加え、動詞の活用について問われました。

◎ Language, Communication and Culture

文献を引用して書くようなエッセイはありませんでしたが、このコースを通して学んだことを 2 ページほどでまとめる課題がありました。これまでの授業で毎回書いたダイアリーをもとに、自分の考え方の変化、異文化間コミュニケーションをする上で重要だと感じることを書きました。

☆ 休むことも留学生活の大事な一部

休む時間をつくることはとっても大事な、と最近強く感じます。

タンペレにいる間に少しでも成長したいと思い、これまで少し無理をする時がありました。「疲れたかも」と思っても、「まだ大丈夫。時間は限られているし、休む余裕なんてない」と思い直し、あまり休みませんでした。11月まではこれでも平気だったのですが、12月に突然、何も手につかなくなりました。論文を読みたくても全く集中できない、という感じです。(これがエッセイの出来が満足いかないものになってしまった原因です)

どうにか課題を終わらせて冬休みに入り、ゆとりができてから、ある変化に気づきました。少し前まで友達とすら英語で話すのが嫌になっていたのに、休んだ後は、英語でもおしゃべりがすごく楽しかったのです。これ以外でもそうですが、今まで「できない、嫌だ…」と思っていたものが、やりたい、できるかもと思うようになったことがありました。

きっと気づかぬうちに疲れや新しい環境が原因でストレスが溜まっていて、12月にそれが限界に達したのだと思います。ストレスのせいで出来ることもできなくなり、焦って、さらにストレスになり…というような負のループにはまっていた気がします。確かに時間は限られているからあまりのんびりはしてられません。ですが、焦って追い詰めすぎるのもよくないと思います。本当に全力を出したい時に集中できるよう、休める時はしっかり休むことが大事だと感じました。

2. 生活の状況

今月は盛りだくさんの月でした。フィンランド独立 100 周年のセレモニーに出向いたり、日本から友達や家族が来てくれたり、様々な場所に旅行したりと、充実した月でした。その中からいくつか絞って書こうと思います。

◎とにかく滑ります

どこもかしこも地面が凍っていて、ぼーっとしながら歩いているとほぼ 100%滑ります。ある時、スケートリンクのようにつるつるしている部分はかなり広がっている場所がありました。案の定、数歩進んでは滑り、また少し歩いたら滑り...というのが何度も続き、もう歩きたくない！怖すぎる！と感じ、一回歩くのをやめました。どうしたら滑らずに歩けるのかな、と周りの人を見たところ、まわりの人たちも滑っていました。氷には誰もかなわないみたいです。

たまに自ら滑ろうとして滑っている人もいます。私が滑って立ち止まった直後、横から私の方を見て微笑みながら、わざと滑っていった人がいました。きっと私に滑り方を実演しながら教えてくれたのだと思います。ですが、もし私が真似したら大げかしそうなのでやめておきます☺。

◎バルト三国への旅行

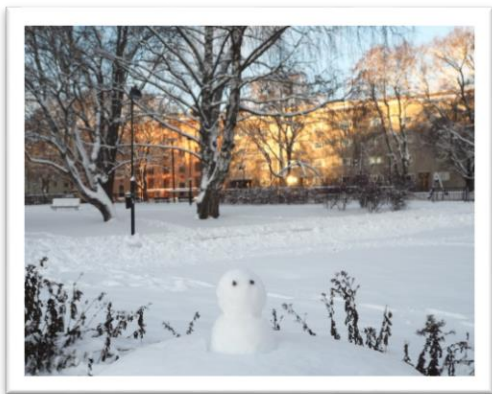
約 1 週間かけて、エストニア、ラトビア、リトアニアの首都を回りました。きれいな景色を見たり、色々な人に出会ったりと楽しい旅行でした。

<印象に残ったことランキング！>

1. リトアニアに着いた時、1980 年代の世界に来てしまったかのような感覚に襲われた
2. ラトビアで、手品師だというおじさんが、突然ホルンで君が代を吹いてくれた
3. 物価の違いって恐ろしい (例: トマト 1 kg あたりフィンランドでは約 3.6€ リトアニアでは約 1.7€)

少しだけリトアニアについて書こうと思います。街に着いた時、本当に、びっくりというか、目の前の光景に言葉がでませんでした。自分が 2017 年の世界にいるとは思えなかったのです。完全に主観的な考えなので他の人がどのように感じるかは分かりませんが、街を走っているバスや建物の様子が少し前の時代のもののように見えたのです。中心地の規模の違いや建物の綺麗さからも、このように感じたのかもしれない。

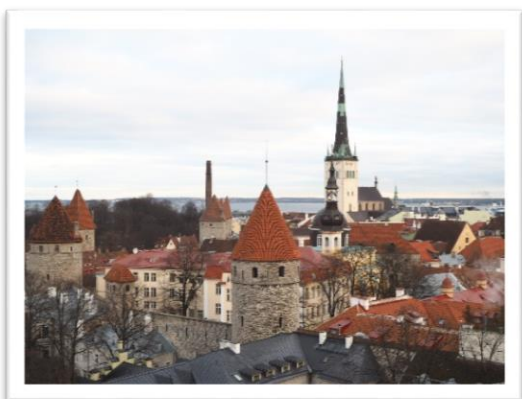
この旅行を通して、近くの国同士でも国によって状況は様々なのだなと感じました。経済状況や技術の進歩は国によって異なると思われるつもりでも、いざそのような違いを目の当たりにすると衝撃を受けました。特に何も考えずに決めた旅行でしたが、景色やその土地の文化を楽しむだけでなくそれぞれの国の状況の違いについて考えることもでき、とても充実した旅行となりました。



雪だるまがいろいろな場所にいます



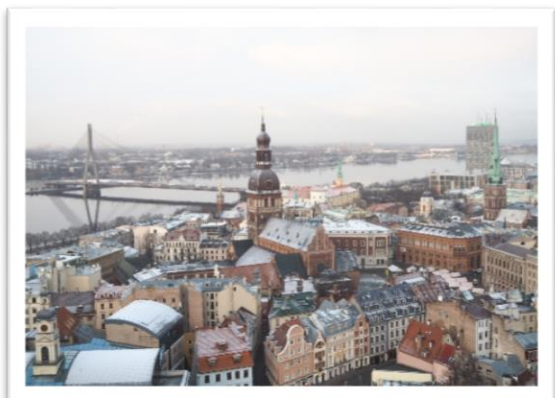
大聖堂も独立記念日は青になっていました



タリンの旧市街①



タリンの旧市街②



リガの旧市街



ヴィリニユスの教会。彫刻に圧倒されました。



← ヴィリニユスの旧市街



← サーリセルカ(フィンランドの北部。北極圏です)
で撮ったお気に入りの一枚

留学期間の半分が終わりました。自分の興味のあることを勉強できており、様々な人とのかかわりを持つこともできて、とても充実しています。ただ、少し受け身になっていた部分があるので、これからは自分でもっと何かを見つけて行動できたらと思います。

今月は頻繁に友達や家族が日本から遊びに来てくれて、たくさんパワーをもらったので、残り半分も元気に頑張りたいと思います😊。

<今月のおまけ：クイズ第二弾★>

Q. 次の交通標識はどこの国のものでしょうか。

(答えは次のページにのせておきます!)

①



②



③



<クイズの答え>

①ラトビア ②日本 ③フィンランド

なんとなく、日本の標識の人の足の長さが短めなような気が、、(笑)。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/1/1～2018/1/31)

1. 勉学の状況

1 か月ほどの冬休みが明け、また授業が始まりました。先学期にフィンランドの教育制度についての授業を多く受講したことでフィンランドの教育制度の大枠はとらえることができたので、今期は少しテーマを絞ったコースを受けることにしました。教育関連の授業に加え、フィンランド語と異文化コミュニケーションの授業の受講も決めました。すでに始まっているコースを簡単に紹介します。

◎Finnish Elementary Course I

フィンランド語の基礎を学ぶコースです。昨年受講したコースは日常で使える簡単なフレーズを学ぶことが主でしたが、このコースでは文法もある程度触れていきます。

◎Cultural Transition

フィンランド人学生と留学生で、文化が与える影響についての考えや、どのようにして特定の文化に適応するのかなどについて話し合います。グループディスカッションが主な活動です。

◎Comparative Education Policy

フィンランドの教育制度とアメリカの教育制度を比較する授業です。教育がテーマのコースですが、社会科学部のコースです。毎週いくつかの論文を読むことが課題で、それらの論文について授業でディスカッションを行います。アメリカの教育制度とフィンランドの教育制度はかなり方向性が異なるため、これらを同時に扱って議論を進めることでより深く考えられて面白いです。

これまで私は授業方法や子どもたちとのかかわり方などのような学校現場で直接教育に関係するものに興味を持つことが多かったのですが、法律や政治が影響している部分を含めて優れた教育とは何かを考察するのも面白いと感じるようになりました。少し前までは、平等性や国が実施する学力テストが与える影響など国レベル、法律レベルのことは学んだとしても自分で何かを変えられるとは思えないし、直接子どもと関わる上では関係のないものだと感じていました。ですが、実際は制度や国の政策がもとになりそれに沿って学校が動くため、強くつながっているのだということに最近になって気づきました。貧富の差による成績の違いや移民の教育など、制度についての議論を通して現場での問題点も見えてきて、とても興味深いです。

このコースで、自分の考えを認識するとともに、ディスカッションを通して教育システムについて柔軟に様々な方向から考えられるようになればと思います。

2. 生活の状況

◎タンペレの冬

冬が来る前までは冬なんてはやく終わってほしい！と思っていましたが、冬の楽しみがたくさんあることがわかりました。

① 景色がきれい

まず、晴れた日の空が本当にきれいです。澄んだ色で、夏の空とは少し違った優しい色で、青空を見るだけで明るい気分になります。木々が凍りつき、一面が真っ白になる景色も本当に好きです。さらに、雪の結晶を見ることができます。雪の日にコートを見ると、いつも結晶がたくさんついてます。こんなにきれいな景色がみられるなら、冬が続いてもいいな、と思うことさえあります。



② ウィンタースポーツをいくらでもできる

フィンランドは自然であふれた場所で、湖や森が多いので、あらゆる場所でスキーやスケート、アイスホッケーを楽しんでいる人がいます。家から歩いて行ける場所でスケートもスキーもできるなんてびっくりしてしまいました。

タンペレの冬は本当に好きです！ですが、ひとつだけ辛いと思うものがあります。寒さそのものはそこまで問題ではないのですが、室内と外の気温差がとても大きく、体に負担がかかりやすいです。例えば外の気温が -10°C で室内が 20°C だとしたら、 30°C も差があることになります。夏に 35°C の場所から突然 5°C の部屋に移動させられた時と同じ気温差だということを考えると、どれだけ変化が大きいかわかりやすいのではないのでしょうか。

体調管理に気を付けつつ、フィンランドの冬を楽しもうと思います！

◎スケートをしました

先日、友達と近くの湖に行ってスケートをしました。湖では多くの人がスケートやスキーをしていました。まだ小学校に入学していないような子でさえ上手に滑っていて、感心してしまいました。私はほぼ初心者で、始めは雪の上をスケート靴を履いた状態で歩くことすら怪しいほどでした。ですが、友達のおかげで、どうにか氷の上でも転ばずに歩けるようになりました！（これだけでも自分の中では結構な進歩なんです... 笑）スケートに行く予定が今後もあるので、フィンランドにいる間に少しは滑れるようになりたいです😊。

<おまけ：スーパーに売っているもの>

次のうち、実際にスーパーで売られているものはどれでしょう？

- ①冷凍みかん ②冷凍のお寿司 ③冷凍の天ぷら

<クイズの答え>

②です。サーモンやエビの握り寿司と海苔巻きが入っているみたいです。

友達がドイツにも売っているよ！と言っていたので、もしかしたらヨーロッパの一部の国では普通に冷凍のお寿司が売られているのかも...??



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/2/1 ~2018/2/28)



1. 勉学の状況

今月から開講された授業である Global Education の授業と、最近教育について考えていることを書こうと思います。

◎Global Education

「世界中の様々な人々と関わる上で、どのような行動をするか」を子どもたちが学校で考えられるような授業をつくるのが目的のコースです。多文化共生、意見の衝突と平和、ジェンダーなど、興味のある内容によって班分けをし、その班ごとに指導案をつくります。

この授業が始まる前までは、「異なる文化背景を持つ人たちと生きていくために互いの文化の尊重が大切」というような内容を教えることが Global Education だと考えていました。ですが授業を受ける中で、文化だけでなく（文化につながる部分は大きいですが）、ジェンダーや考え方の違いにより起こる衝突など身近で具体的な場面についても考える必要があると考えるようになりました。

先日の授業の活動のひとつに、班ごとに違う論文のある章を読み、要旨をほかの班に発表するというものがありました。私が読んだ章のテーマは社会的正義でした。この論文によると、社会的正義は人間の権利と（国・地域の）成長によって成り立っており、権利なしでは成長はできないとされています。何か権利や自由を制限をされて状況が悪くなった時に、それを周りに訴えることが大事だとされています。これを読んで、自分が社会の一員であることを理解し、積極的に社会に関わっていくことが生活する環境・状況を良くするためには必要だと学びました。

私はこれまでどこか受け身で、何かあっても「まあいいや。どうにかなるだろうし。」と考えがちでした。ある程度しっかりと自由と権利が守られている環境に恵まれたことがこの考え方に関係しているかもしれません。ただ世界に目を向けると、必ずしも権利が守られているとは限りません。たとえ大部分の物事が良くとも、何かしらの問題は存在していると思います。比較的平和で権利を主張する必要がほぼない日本に住んでいるからこそ、積極的に社会参加をし、状況を良くするためにどうすべきかを学ぶ必要性があるのではないかと感じました。

最近、良い教育って何だろう、と考えることがあります。これまでフィンランドの学校を見学する中で良いと感じたのは、個性を認めて想像力を伸ばそうとしている点です。日本の教育はどちらかというとあるルールに従って動くということが多いため、個性の伸長について、これからもっとフィンランドの教育を学ぶ上で注目したいと感じました。一方、教えるときの効率性は日本の学校の方が優れていると感じました。日本の教育現場は余分な時間がなく、大事な部分がま

とめられているように感じます。日本の教育とフィンランドの教育の長所をすべて含むことができればもっと良い教育になるのかもしれませんが、本当にそうなのかな…と疑問にも感じます。例えば、創造性を伸ばそうとしたら考える時間が長くなるため、どうしても効率は悪くなります。このように、教育について考えるうえで矛盾は存在すると思います。そのため、どのような能力、知識を身に付けさせたいかをよく考え、ある程度優先順位をつけることも必要なのではと最近では思います。

また、良い教育は国や地域によって違うとも思います。その土地の人々の考え方や宗教、政治など様々なことが重なって教育がつくられているため、ある国の教育だけを見てその制度や授業方式を取り入れるのは違うのではないかと感じます。ある国にとってはよくない事でも別の国では好まれることもあるかもしれません。ある国の教育の一部だけを見て「これは優れている。真似すべきだ」と早まるのではなく、良い点を見つけて自分の国の状況をよく考え、その上でどのように良いと思ったことを取り入れるか考えるのが大切だと感じます。自分の国の教育の良さは見えなくなり悪いところばかり目につきがちですが、まずは冷静に自分の国の状況を把握し、そのうえで他国の状況を考えることが大切なのではないかと思っています。

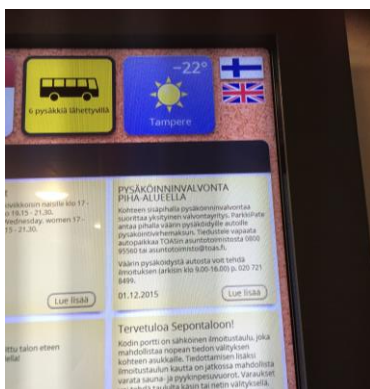
2. 生活の状況

◎パスポートの更新

友達とロシア旅行の計画を立てていた時に、ビザの話になりました。ロシアの場合、入国時に6か月以上有効期間が残っていることが条件なのですが、よくよくパスポートを確認してみると、5か月しかないという恐ろしい事実気づいてしまいました…。あわててパスポートの更新について調べ、ヘルシンキにある日本国大使館に出向いてどうにか新しいパスポートを受け取ることができ、ほっとしました。みなさん、パスポートの有効期限には本当に気を付けてください！そういえば、受け取ったパスポートを見たら、発行機関が外務省ではなく在フィンランド日本国大使館となっていて、少し特別感があって嬉しかったです😊

◎友達との旅行

今月末から地元の友達がフィンランドに遊びに来てくれて、ロヴァニエミやヘルシンキへ一緒に旅行しました。最近は勉強で余裕がなくなりそうなこともあったので、とっても良い息抜きになりました。念願のオーロラがとってもきれいに見えたり、サンドッグという雨のない虹のようなとても珍しい現象も見ることができたりして、本当に良い体験を沢山することが出来ました。

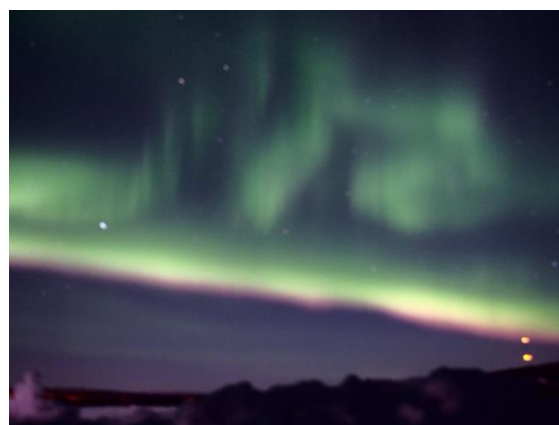
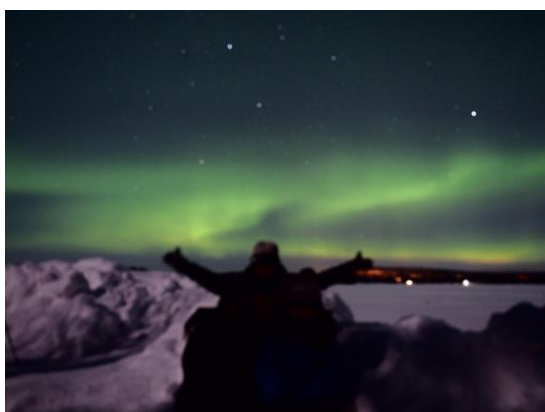


タンペレでもこれぐらい寒くなることがたまにあります。



春服がすでに売り出されています。いつになれば春服が着られるのでしょうか...(笑)

それと、このマネキンの目の位置に違和感を覚えるのは私だけ...??



こんなに大きなオーロラを見るのは初めてで、本当に嬉しかったし感動しました。オーロラはもちろん、星がとってもきれいで、雪の上に寝転がりながら見たのはとってもいい思い出です。



ハスキーのそりに乗って、大自然を満喫しました！天気が良く、とても気持ちよかったです。

<おまけ：物が凍る目安>

私の経験をもとに、何度になると何が凍るかを書いてみようと思います。

(経験を基にしているので正しいかは分かりません笑)

0°C : 水たまりが凍る

-5°C : 湖で飛び跳ねてもスキーやスケートをしても大丈夫な気温

-7°C : 大きな川の一部が凍る。雪の結晶をきれいにみることができる。

-10°C : ダイヤモンドダストを見ることができる。木の枝が凍って真っ白になる。
(これくらいの気温の景色が本当にきれいです。)

-15°C : 髪の毛、まつ毛などあらゆる毛が凍る。鼻の中も凍ります。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/3/1 ～2018/3/31)



まだまだ雪が残り寒い日もありますが、今月に入ってから小鳥のさえずりを聞くようになりました。フィンランドにも、ようやく春が来るようです。

1. 勉学の状況

2月末から少し方針を変えました。これまでは大学の授業を中心にしようと考えていたのですが、学校訪問をさせていただく機会を多く得られたため、学校訪問を中心にすることにしました。

学校訪問の機会を得た方法はいくつかありますが、最も多いのは大学からの募集です。多くの小中高校にインターナショナルウィークがあるらしく、その時期に留学生を呼び、生徒が話を聴くイベントが開かれています。このイベントへの参加募集がタンペレ大学から何度かありました。このイベント時に通常の授業にも参加させもらえないかとお願いすると、たいてい「もちろん！」とってもらえます。

もう一つの方法としては、Erasmus in Schools というプログラムに申し込むことです。このプログラムでは留学生がフィンランド内の学校の授業に参加することができます。学校に訪問する回数と日付は、訪問する学校の先生と直接やりとりして決めます。活動内容も大抵自由に決めさせてもらえます。

ここからは学校訪問で感じたことを書こうと思います。今月は少し特殊な学校にも訪問させていただきました。特に印象に残った2校について書いていきます。

☆ vocational school (職業学校)

フィンランドの人たちは中学卒業後、通常の高校か専門学校のような職業学校に進学します。訪問前、私は学生の大部分が年下だと思ってプレゼンを用意したのですが、実際はほとんどの学生が私よりも年上(40代の人も!)で驚いてしまいました。話を聴いてみると、「もともと看護師をしていたが、観光業に携わりたくなった」とか、「この前大学を卒業したが、新たに学びたいことができた」など、様々な理由からこの学校に入学したようです。これまでは大学を卒業して働きだしたら学校での勉強は完全におしまいだと思っていたので、この考え方に感心してしまいました。これはフィンランドだからできることなのかもしれませんが、それでも、勉強をしたくなったらする、という考え方はとてもいいな、と感じました。

この訪問を通して自分の将来についても考えることができました。この学校にはいろいろな生き方をしている人がいました。これまで私は「この道を進むべき」というのが頭の中にあって、自分が本当に何をしたいかよりも社会で“普通”とされているものを選んできました。フィンランドで多くの人と話して、この学校の学生さんと話して、周りを気にしすぎるよりも、自分の望むことをや

りたいと思うようになりました。自分のやりたいことをやるのはもちろん責任が伴うし簡単ではないことも多いと思います。ですが、挑戦もせずにやりたいことをあきらめるのは嫌だという思いの方が強くなりました。これからの可能性を自ら狭めずに、「とりあえずやってみよう！」の精神を忘れないようにしたいです。

☆インターナショナルスクール

タンペレにあるインターナショナルスクールにお邪魔させていただきました。この学校にはフィンランド人の生徒もいますが、移民の生徒もかなり多いです。だいたい半々ぐらいだと思います。私は中学3年生のクラスの授業に参加したのですが、みんなたくさん感想をくれて、質問もたくさんしてくれました。クラスの中には静かな子もいるのですが、そのような子でも質問があったらどんどん質問してくれたので少し驚きました。このクラスのようにどの生徒も意見を言うことに抵抗がなく、質問も気兼ねなくできれば、どんな授業でも、先生が一方向的に話すのではなく生徒との双方向のやり取りが多くなるだろうなと感じました。先生の授業の腕はもちろん大切だと思いますが、それだけではなく、クラスの雰囲気（意見を言いやすい空気）も大事な要素だと感じました。

もう一つ印象的なことを挙げます。他の学校でも感じたのですが、先生が注意をすることはあっても、児童生徒をきつく叱る場面を全くと言っていいほど見たことがありません。ある先生が「生徒に厳しくすることでクラスをまとめるのは簡単。だけど、それだと創造性を伸ばしたり楽しく活動したりできなくなってしまう。だから厳しくしない」とおっしゃっていました。この創造力を重視するのはフィンランドらしいと思いました。ただ、この学校にも厳しい先生もいるらしく、自由を与える先生が厳しい先生のクラスの授業を持つときは授業に集中しない児童もいてまとめるのが大変だと話されていました。何事においてもバランスが大切なのかなと思います。ただ、子どもたちの行動は様々な先生との関わりはもちろん家庭環境も大きく影響するため、どのように児童生徒と関わるのが好ましいとするかを考えるのは難しいと感じました。それでも、良い授業にするには、生徒と良好な信頼関係を築くことは重要な要素なのではないかと感じます。



(学校で見つけた掲示)

学校訪問をすると本当にいろいろなことを考えさせられて、とても勉強になります。

2. 生活の状況

◎最近ハマっていること

お店で買い物をする時にフィンランド語を使うことがマイブームです。これまでフィンランド語を授業外であまり使わなかったのですが、フィンランド人の友達と出かけた時に「フィンランド語で注文しなよ〜！」と言われてフィンランド語を使ったのをきっかけに、極力フィンランド語を使うようになりました。とはいっても基礎しか勉強しておらず、フィンランド語で話せることはごくわずかで、店員さんに何か質問されたら、微笑むか英語に切り替えるかの二択です。自分が欲しいと思っていたものとは違うものを注文していたり、私のフィンランド語がおかしいのか、店員さんがとても朗らかな笑顔を向けてくれたりもしますが、まあそれも楽しいです😊

フィンランド語という言語を学ぶこと自体も面白いのですが、それ以上に、フィンランドの人たちとの距離がとても縮まるのが嬉しいです。英語だけでも生活できても、その国の言語を学ぶことで文化を学べたり、その国の人たちと仲良くなれたりするため、行く国の言語を学ぶのは大事だと感じました。

◎サンクトペテルブルクへの旅行

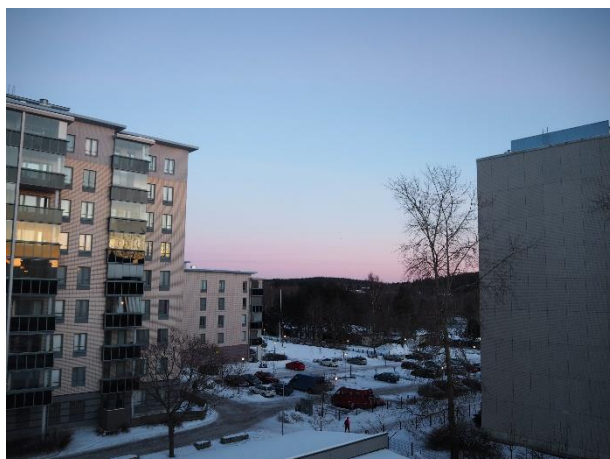
大学の友達とロシアのサンクトペテルブルクを旅行しました。ロシアはフィンランドの隣の国ですが、雰囲気はかなり違うように思えました。フィンランドのデザインはシンプルなイメージで、歴史的な建物もそこまで装飾は多くない印象です。一方サンクトペテルブルクには豪華できらびやかな装飾を持つ建物が多く、金色のものが多くというような印象です。雰囲気から考えると、ロシアはフィンランドよりもバルト三国の方が近いように感じました。(歴史から考えるとそれは自然なのかも…?) 想像していたよりもとても栄えていて、ロシアに対するイメージが少し変わりました。やはり本や映像で見ただけなのと、実際にその土地に行くのとでは得られるもの・感じるものが全然違う思いました。

この旅行で一番衝撃的だったのはロシアへの入国審査かもしれません。フェリーを降りてから入国審査を通るまで、3時間はかかりました。始めはみんな列になって並んでいたのですが、ある時突然列が崩れてぐちゃぐちゃになり、待つにつかれた一部の人が手拍子をして煽り始めて...と、混乱状態になっていました。もう、びっくりしました...

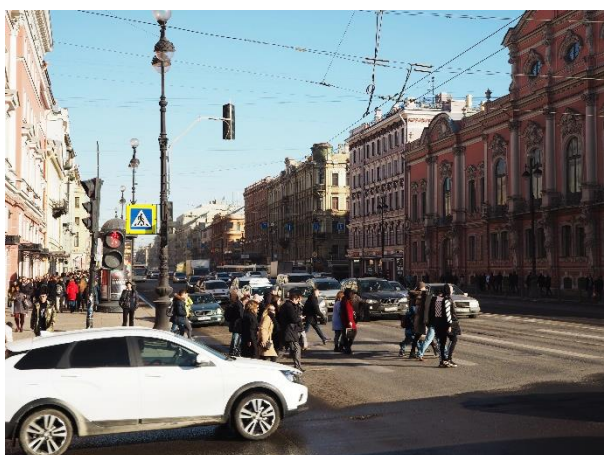
入国審査ではいろいろとありましたが、本当に楽しく充実した3日間でした。



湖の上を歩くことはもうできないかな...



夜8時でもこの明るさです



サンクトペテルブルクの大通り



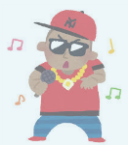
サンクトペテルブルクの教会



バレエの鑑賞もしました



<今月のおまけ>



フィンランドの小中学校で実際に行われている活動はどれでしょうか。

- ①ラップ（音楽）をつくる ②パーカーをつくる ③シナモンロールをつくる

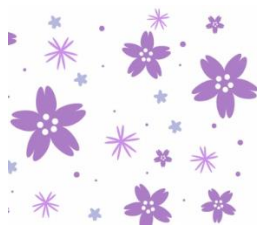


(答えは下にご書いておきます！)

<おまけクイズの答え>

正解は...①、②、③ 全てです！

他にも面白い活動を色々としているみたいです。



海外派遣留学プログラム月間報告書



(報告期間：2018/4/1 ～2018/4/30)

1. 勉学の状況

4月で授業がほとんど終わりました。今は、エッセイとフィンランド語のテストの勉強、学校訪問が大部分を占めています。エッセイについての簡単な説明と学校訪問（プリスクール）で感じたことを書いていきます。

◎ Comparative Education Policy

今書いているエッセイは comparative education policy というコースの最終課題です。最終エッセイのテーマは「教育に関する政策を提案する」というものでした。5つの文献のレビューを書き、それを根拠に政策を提示しました。私は教員が生徒に与える影響と教育の機会均等の観点から教員の異動制度について書くことにしました。

◎学校訪問（プリスクール）

今月はプリスクールについて書こうと思います。フィンランドでは、子どもが小学校に入学する前の1年間にプリスクールに通わせることが義務づけられています。プリスクールでの活動は、主に日本の幼稚園とほぼ同じだと思います。工作の時間があったり、自由に外で遊ぶ時間があったり、という感じです。カリキュラムについては、国で作られたものがあるものの最低限の事しか決められておらず、自治体や各学校で自由に活動を定められるようです。例えば、私が訪問している学校ではメディア教育を重視していて、毎年、絵や人形などを用いて短い映画の作成をしています。ストーリーは子どもたちが考えているそうです。このように、学校や先生が決められる範囲が広いことはフィンランドの学校(特にプレスクール～小学校)の特徴だと思います。

プリスクールで驚いたのは、(これは小中高校でも同じですが、) ICTがよく活用されているということです。例えば、自由時間に子どもたちがやっていたことのひとつに、タブレット端末を使ったゲームがありました。言葉を覚えるためのゲームなのですが、タブレットが普通に教材として使われていることは印象的でした。



← プリスクールで、ある女の子が私の似顔絵をかいてくれました。

2. 生活の状況

この1か月で本当にびっくりしてしまうくらい暖かくなりました。4月の初めは気温が0°C近く寒かったのですが、4月後半には15°Cを超えるほどになり、過ごしやすくなりました。雪景色が見られないのは寂しいと思った時もありますが、小さな花や草木の色がとても鮮やかで明るい気分になり、やっぱり春もいいな、と感じるようになりました。

◎授業がない日の過ごし方

今月は週末にも遠出することはなく、タンペレにずっといました。これまで旅行と気候についてばかり書いてきたので、今回は授業のない普通の日の過ごし方について記そうと思います。

基本的には、授業の課題をしたり家事をしたりすることが多いです。天気がいい日には、家の近所を散歩するのが習慣になりました。時々ルームメイトや大学の友達と、お互いの国の料理を作りあうこともあります。カフェでおしゃべりして過ごすこともあります。外食はお金がかかってしまうため、誰かの家で集まることが多い気がします。

留学する前に、フィンランドに留学されていた先輩から「留学期間中は結構余裕があつてのんびりしていたよ。」と聞いていたのですが、私の場合は思っていたよりも忙しく、(自ら望んで忙しくしているのかも…?) 何かに追われていることが多いです。留学中の過ごし方は本当に人それぞれで、どのような留学生活にするかは本当に自分次第だなと感じます。

◎文化の違い

「文化の違い」と聞くと、宗教やしきたりなどに目が向けられることが多いですが、実際は日常生活の中でも文化の違いを感じるが多々あります。例えば会話のスタイルの違いがあると、とてもびっくりします。

—会話のスタイルが原因でびっくりしたこと①・話を始められない—

みんなの勢いがありすぎて、自分が話し始めるタイミングが分からない！こんな状況になることがたまにありました。日本の友達と話す時は、探さなくても会話の途切れる部分があつて、話し始めのタイミングをつかむことに苦労することは無いのですが、他の国からの留学生といるときに話すタイミングを逃すことが時々あります(どこの国かは書きませんが、ある国から留学生の勢いがすごい、止まらない…笑)。話の途切れる部分を注意深く探しても、切れたその瞬間かで他の数人が話し始めるので、もう圧倒されます！多くの人が自分の意見をしっかり持っているのですが、それを話したくてしょうがない！と思っている人に時々遭遇します。仲良くしている子がたまたまそういう性格だということもあるかもしれませんが、きっとこれは文化の違いもあるのかな、と思います。

—会話のスタイルが原因でびっくりしたこと②・思ったことをそのまま話す—

これも人の性格によるのですが、とりあえず思い浮かんだことを話す、という人が一定数いると思います。日本にいるときは、授業でも友達とのおしゃべりでもそうですが、何か考えや疑問

があれば、一度自分の中で考えたり場の空気を読んで実際に話すか決めたりする人が多いイメージですが、こちらに来てからたまに、“とりあえず思い浮かんだことをとにかく話す”というような場に遭遇します。このような会話のスタイルが原因で、あるひとつのものに対する感想が一瞬のうちに二転三転している友達がいます。あまりに衝撃的で「その子の本当の考えは何なの?!」とかなり混乱したことも…。ですが、今では「ああ、ただ単にその時思ったことを素直に言っていただけなんだな。」と思えるようになりました。

これまで日本で当たり前・常識だと思っていたことが、日本を離れると当たり前ではないことが多く戸惑いもありますが、それと同時に面白いとも思います。来たばかりの頃は余裕がなかったからか、カルチャーショックが精神的に辛いこともありましたが、今ではそれも留学の楽しみのひとつかな、と思えるようになりました。

日本にいても同じですが、全員にとっての当たり前や常識って実は存在しないのではないかなと思います。だからこそ、たとえ自分が驚いてしまうようなことを相手がした時も、一回落ち着いて、自分に無理がかからない程度に理解しようとするのが大切なのかな、と感じます。



4月2日



→ 4月25日 ほとんど雪は溶けました



5回目…? くらいのもーミンミュージアム
(毎月最終金曜日は無料で入れます!)



花を見かけるようになりました

<おまけ：クイズ-趣味->

フィンランドの小学生と趣味の話をした時に意外と多かったものはどれでしょう。
(答えは選択肢の中のひとつだけです！)



①乗馬

②きのこ狩り

③ゴルフ



<答え>

① 乗馬 が正解です！

タンペレの中心からバスで30~40分もするとほとんど森で、たまに家があるというような場所になります。馬があらゆるところで飼われており、乗馬が趣味になるのも納得できます。